城山エコミュージアム通信

令和７年（２０２５）１月１５日　第４７号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方のもとに、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

「令和６年度　城山エコミュージアムツアー」 開催

テーマ:穴川の里を訪ねて ～今も残る里山の原風景～

日時　令和６年１０月２７日（日）９：００～１２：００

小松のコスモスが見頃となった10月27日（日）城山公民館に40名のツアーの参加者が集まりました。今年のツアーは、城北地区の穴川。環境省が指定した「生物多様性保全上重要な里地里山５００選」に選ばれてから16年。その後の里山はどのように変化しているのか、またそこに住む人々の暮らしや文化、歴史、自然に触れるツアーとなりました。

〖行程〗

城山公民館・・川尻八幡宮・・金刀比羅宮参道入口・・注連縄（しめなわ）作りの田んぼ
小松コスモス・・堂谷戸（どうやと）・・良円山弁財天・・塚・・明観寺（みょうかんじ）

＜これぞ里山＞

＜明観寺本堂にて＞

まず、最初に川尻八幡宮へ。明治の合祀令（ごうしれい）注によって城北地区から合祀された春日神社を見学。その後、金刀比羅宮参道入口を通りいよいよ穴川地区へ。鶴岡八幡宮と川尻八幡宮に奉納する注連縄作りの田んぼからは龍籠山を望み、金色の稲穂、赤いカラスウリと色彩豊かな秋の里山風景を満喫しながらあぜ道を歩き明観寺へ。総代の齊藤利市さんと副総代の高城勇さんが迎えてくださり、明観寺の貴重なお話をお聞きしました。お寺が長きにわたって地元の方々に愛され立派に守られていることを知ると、ツアーの参加者の表情から感嘆の笑みがこぼれていました。そして、明観寺の裏手にある小高い丘にある塚（セーノカミ）へ。合祀される前にあった春日神社の入口と塚からは眺望がよく、橋本方面まで見渡すことができます。先人たちの想いに心を寄せて景色を堪能しました。ツアーの後半は、穴川林道を上流に向かって歩き良円山弁財天へ。

＜明観寺で記念撮影＞

齊藤修身さんがお堂を開けて迎えてくださいました。お堂にはとても珍しい弁天様が鎮座していました。参加者からは立派な弁財天を拝観することができてとてもうれしかったと、感想をいただきました。最後に堂谷戸を見て、夏のホタルが飛び交う様子を想像しながら穴川沿いを歩き、金刀比羅宮参道を横切り穴川から小松へ。コスモスを愛でながら公民館への帰路につきました。里山の秋、歴史や文化を垣間見ることができた実りあるツアーでした。ご協力いただいた穴川地区の皆様に深く感謝申し上げます。　（長久保 梓）

＜弁財天にて＞

注）合祀令…二柱以上の神・霊を一つの神社に合わせまつること。

今回のトピック　■特集「穴川ツアー報告」■城山探訪「春日神社」■しろやまミニ図鑑「シロマダラ」■城山検定■活動報告「学びの収穫祭」他■インフォメーション「つどいのお知らせ」

春日神社

＜川尻八幡宮境内 案内板＞

＜川尻八幡宮にある春日神社＞

＜本殿＞

川尻八幡宮にある春日神社は、明治政府の一郷一社制により、明治44年城北地区から川尻八幡宮に合祀されました。本殿の右側にある春日神社本殿は、桁行4.3尺（1.3m）の中型社殿で、流造でありながら正面に千鳥破風をつけ向拝の屋根幅を狭めるなど春日造を意図しています。建立は18世紀中期と推定され、相模原市登録文化財に指定されています。

春日神社が合祀されるまえは明観寺から400mほど奥に入った春日山の森の中にありました。現在その場所に小祠があります。小祠の壁には、春日社年末清掃奉仕日で実施日時が書いてあり、昭和59年12月23日が最後の日付です。

＜森の中の春日社＞

春日神社創建の地での状況と春日山への遷宮のいきさつが伝承されています。「創建のころは境川沿いにあり、あたりは大木が生い茂った森であった。対岸の相原村（町田市）ではかねがね春日社の森が日陰をつくって困っていたので、森の木を切ることを条件に、境川の水を原宿に引く事を認めた。＊注１）川尻村では、伐採した木を売って現在地の春日山に遷宮し、社殿の造立や用水堀の工事費にあてた」とあります。

城山町史２（資料編近世）の最初のページにある絵図（川尻村貞享元年（1684））の中に“春日”と書いてあり、すぐ近くを境川が流れています。その絵図を頼りに探したところ、境川沿いに住む武内博恵（たけうち ひろよし）さん（87歳）から古宮（ふるみや）と呼ばれていた範囲と春日社領田のあった場所＊注２）を教えていただきました。（高橋 告郎）

出典：城山町小祠報告書（城山町教育委員会 平成８年３月発行）
＊注１）原宿用水のこと。17世紀初期、幕府の指示により計画的につくられた集落の原宿に、北方の境川の広田地区から水路を掘削して水を引いた。
＊注２）現在の都営武蔵岡アパート駐車場の境川を挟んだ対岸のあたり。

城山検定

問　題

この石灯籠には「秋葉大権現」と刻まれています。
どこにあるでしょう？

①普門寺（中沢）
②良円山弁財天（穴川）
③宝泉寺（小松）

⇒解答は４ページ

しろやまミニ図鑑

シロマダラ　（ナミヘビ科）

2025年は巳年です。城山には、ヤマカガシ、マムシ、アオダイショウなどたくさんのヘビが生息しています。

庭の植木鉢を持ち上げたら、見たこともないヘビがいたので急いで写真を撮りました。調べると日本固有種の「シロマダラ」という無毒で夜行性、全長４０～７０cmの小型のヘビでした。祖先が日本に入ってきたのは、きわめて古い時代のことと考えられています。夜行性なので遭遇する機会は少ないですが、運が良ければ物陰に潜んでいるシロマダラに出会えるかもしれません。（長久保 梓）

参考文献；小学館の図鑑NEO　両生類・はちゅう類

活動レポート

城山もみじ学級ガイド　「知らなかった大発見！　城山ご近所散策」

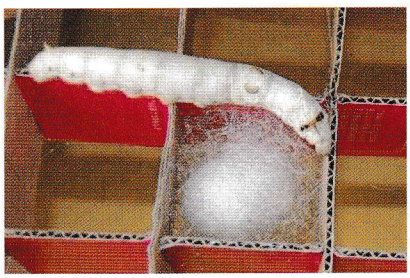
日時：令和6年10月9日（水）　13：30～15：30

昨年度はクマ騒動で歩けなかったので今年度も小松コースで計画しましたが、残念ながら天候に恵まれずリベンジとはなりませんでした。

前半はコースの説明をして、中でも「川尻八幡宮のお祭り」と「小松城」について詳しく行いました。後半は城山エコミュージアム委員会の活動をより知ってもらうために「城山エコミュージアム通信」の紹介と活動事例の一つとして「養蚕研究」の発表をしました。

「地域の歴史を学び、エコミュージアムの会員の方たちの活動の内容と豊富な知識に学ぶものがあった」というたいへん嬉しく今後の励みとなる感想をいただきました。

（金子　直美）



＜養蚕研究で、カイコを飼育しました。＞

「相模原市立博物館　学びの収穫祭」　出展

日時：令和6年11/23（土）～11/24（日）

学びの収穫祭は博物館を拠点に活動するボランティアグループや、学芸員が活動に関わっている様々な団体などの研究成果や活動状況を発表します。

城山エコミュージアム委員会では、令和5年10月22日（日）にツアーを行った「若葉台ってどんなところ？」をパネル展示で発表しました。若葉台住宅の地形などに関心ある方もいて親しく話すことができました。自然豊かな城山地区の魅力を発信しながら活動していきたいと思います。　（吉田　徳雄）

学習会開催「春日神社」　日時：令和6年9月4日（水）（担当：髙橋告郎）

全国にある春日神社は奈良にある春日大社から勧請したもの。春日大社の祭神は四柱で別の土地で祀られていた神を勧請しての奉斎です。

これとは別に安閑天皇（在位534？～535年）を祭神とする神社が大戸付近にあること、妃が春日山田皇女という名前、春日谷という地名があることなど、祀られた安閑天皇がさみしくないように春日社があるのではという伝説がある、という話がありました。　（田畑　房枝）

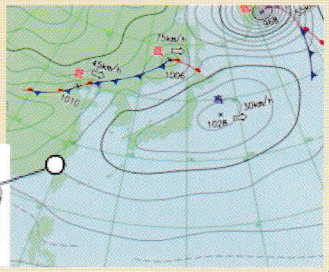
INFORMATION

地域がわかる・学ぶ・楽しむ
城山エコミュージアムのつどい

“まちまるごと博物館”城山エコミュージアム委員会の活動紹介と、皆様と一緒に学び楽しむ「講演」を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時：令和７年2月15日（土）13:30～16:00　（受付13:00～）
会場：城山公民館・大会議室　（緑区久保沢2-26-1）
内容：①活動紹介「城山エコミュージアム」活動
②事例紹介「穴川の里を訪ねて」ガイドツアー
③講演「教えて！気象予報士さん、相模原の気候と気候変動」
～私たちの暮らしは？～

講師　田子 智大氏：相模原市博物館天文分野担当学芸員（気象予報士）
＊季節や天気の変化がどのようにして引き起こされているのか
また、最近話題となっている異常気象や気候変動についてお話します。



定員：40名（先着順）申込開始：令和７年1月21日（火）午前9時～
申込・問い合わせ：城山公民館　TEL：042－783－8194
※月曜および祝日の翌日を除いた午前9時～午後5時　※参加費無料
主催：城山公民館　　主管：城山エコミュージアム委員会

【報　告】

国土交通省国土技術政策総合研究所の「景観行政に関する調査と資料等の紹介」が10月3日にオンライン報告され「歴史的資源を活かしたまちづくりに関する基礎的調査」で城山エコミュージアム委員会の活動が取り上げられました。

解説 城山検定

答え：② 良円山弁財天

この石灯籠には、「秋葉大権現」「鎮守雨〇宮」「天下泰平」「天保四年四月巳年」と、文字が刻まれています。台座には「講中」とあり、弁財天を祀る地域の人々によって勧請されたものと思われます。秋葉大権現は静岡県にある秋葉神社の御神体で、火防の神として全国的に信仰圏を広げています。

天保年間（1831～1845）は自然災害が多発し全国的に飢饉で人々が苦しめられた時代でした。　（新妻 修）

出典：日本石仏図典（日本石仏協会編纂　株式会社国書刊行会発行）

＜年号が刻まれている＞

◆城山エコミュージアム委員会では常時委員を募集しています。毎月第１水曜日の定例会の見学ができます。公民館へお声がけください。

編集後記

本号は、出会い・再会・ふれあいの場となったツアー報告になりました。毎年参加される方、初めての方、同じ興味を持つ方など、ささやかながら交流の場となることができ、関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

（長久保 梓）

企画/作成：
相模原市立城山公民館 城山エコミュージアム委員会
発　行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721
城山公民館ホームページQRコード
ホームページをパソコンで見る時は
相模原市　城山エコミュージアム　→　検索